

# 9・11経産省前 テントひろば集会



**辺野古「不承認」訴訟 最高裁不当判決糾弾！**

commons とは…労働者農民市民が協働して、国家と私を超えた自治と生産の共同の場を、共につくり合うこと

# commons

2023.9.20 第176号

■発行所／コモンズ

■編集機関局／東京都中野区新井2-7-12-25号

コモンズ政策研究機構内

■電話：03-3389-0411 Fax:03-3389-8573

■編集／革命21

■The Communist Association for Revolution Movement 21

■郵送購読料／1部500円 半年2500円(1年5000円)

■郵便振替口座／00100-5-391171(コモンズ政策研究機構)

■ウェブサイト：<http://www.com21.jp>

■メール：rev@com21.jp



命の海と沖縄の自治破壊する国策追認を許さない！  
沖縄辺野古新基地建設の軟弱地盤改良工事に伴う、防衛省沖縄防衛局の設計変更申請を県知事が不承認とした処分をめぐり9月4日、最高裁は県の上告を棄却する門前払いの不当判決を言い渡した。玉城デニー知事は「地方公共団体の自主性や自立性、ひいては憲法が定める地方自治の本旨をもないがしろにするもの」だと記者会見で表明。現憲法が保障する地方自治は国益に対する概念として県・地方の利益を据えており、これは戦前の新基地建設に反対する圧倒的民意を受けた知事の決定を切り捨て、日米安保下の在日米軍基地問題に関しては、大日本帝国憲法の強力な中央集権体制の反省を踏まえたものである。しかし、沖縄の米軍基地問題に関しては、これには沖縄だけの問題ではない。国益の名の下に地方自治体・住民の民意が無視されるのは、福島第1原発からの核汚染水の海洋放出を「関係者の理解なしにいかなる処分も行わない」という約束を反故にして強行した政府の姿勢に通じる。地方自治・分権に逆行し、現憲法を破壊し、戦前の帝国憲法下に逆戻りするような政治は、聞く耳持たぬ岸田政権の大軍拡・戦争国家への暴走への一環である。

からこの核汚染水の海洋放出を「関係者の理解なしにいかなる処分も行わない」という約束を反故にして強行した政府の姿勢に通じる。地方自治・分権に逆行し、現憲法を破壊し、戦前の帝国憲法下に逆戻りするような政治は、聞く耳持たぬ岸田政権の大軍拡・戦争国家への暴走への一環である。

これは沖縄だけの問題ではない。国益の名の下に地方自治体・住民の民意が無視されるのは、福島第1原発からの核汚染水の海洋放出を「関係者の理解なしにいかなる処分も行わない」という約束を反故にして強行した政府の姿勢に通じる。地方自治・分権に逆行し、現憲法を破壊し、戦前の帝国憲法下に逆戻りするような政治は、聞く耳持たぬ岸田政権の大軍拡・戦争国家への暴走への一環である。

辺野古埋立地は軟弱地盤で、工事費は際限なき無駄遣い！  
工事即時中止、計画断念しかない！  
9月11日、「経産省前テントひろば」12周年集会を開催  
今年は「汚染水ながすな！」という強い反対の世論の中で、この経産省前集会に、韓国から「汚染水放流の中止を求めて1600km韓日市民徒步行動（李元栄イ・ウォニヨン韓日市民徒步行動隊長）」の一行が皆さん、韓国からの日本政府への抗議をするための「大遠征」の最終地として「9・11経産省前ひろば」集会に合流した。  
また、福島県から9月6日に出発した「汚染水を海に流すな！」韓国・福島・東京の熱き声が霞が関に響く

9月11日、オール沖縄会議は県庁前広場で「地方自治・ぞ！」と「不当判決に対する怒りと抗議の県民集会を開いた。参加者は「新基地反対は住民自治を尊重せよ・知事の決意を守れ！」と闘い続ける決意を口々に語った。

9月11日、オール沖縄会議は県庁前広場で「地方自治・ぞ！」と「不当判決に対する怒りと抗議の県民集会を開いた。参加者は「新基地反対は住民自治を尊重せよ・知事の決意を守れ！」と闘い続ける決意を口々に語った。

9月11日、オール沖縄会議は県庁前広場で「地方自治・ぞ！」と「不当判決に対する怒りと抗議の県民集会を開いた。参加者は「新基地反対は住民自治を尊重せよ・知事の決意を守れ！」と闘い続ける決意を口々に語った。

費用は県によれば2兆5千億円、3兆円を超えると試算され、際限のない税金投入が不可避である。また、埋め立てで土砂が沖縄戦の激戦地の南部戦跡などから採掘される予定で、遺骨の混じる土砂で戦た。その後、県民の粘り強い

争のための軍事基地を造るのだと、戦没者への冒涜であり、断じて許されない。国との訴訟が始まった16年、当時の翁長知事は「埋め立て強行なら人類共通の財産を地球上から消失させた仕業を悔む」「かけがえのない済む」「かけがえのない済む」などと訴え、税金の無駄使いを止め、工事を即時中止し、自然と生態系への破壊、地方自治の破壊のもの」と訴え

た。その後、県民の粘り強い

状況がいかに不条理で、人権においても不平等な状態であるかを国際公論に訴えた。8年前に國連人権理事会に出席した故翁長知事は、約600年前の琉球王国の成立からその後の歴史的琉球処分、戦後の米軍占領、独立を引き換えに琉球・沖縄が日本にようて米軍施政下にさこだされたこと、本土復帰とその後の米軍基地集中による沖縄の「苦しみ」を語り、沖縄の自己決定権が蹂躪されてきたと訴えた。沖縄県知事として2回目となる玉城知事の国際的世論への発信に期待したい。

9月11日、オール沖縄会議は県庁前広場で「地方自治・ぞ！」と「不当判決に対する怒りと抗議の県民集会を開いた。参加者は「新基地反対は住民自治を尊重せよ・知事の決意を守れ！」と闘い続ける決意を口々に語った。

9月11日、オール沖縄会議は県庁前広場で「地方自治・ぞ！」と「不当判決に対する怒りと抗議の県民集会を開いた。参加者は「新基地反対は住民自治を尊重せよ・知事の決意を守れ！」と闘い続ける決意を口々に語った。

9月11日、オール沖縄会議は県庁前広場で「地方自治・ぞ！」と「不当判決に対する怒りと抗議の県民集会を開いた。参加者は「新基地反対は住民自治を尊重せよ・知事の決意を守れ！」と闘い続ける決意を口々に語った。



9月11日、オール沖縄会議は県庁前広場で「地方自治・ぞ！」と「不当判決に対する怒りと抗議の県民集会を開いた。参加者は「新基地反対は住民自治を尊重せよ・知事の決意を守れ！」と闘い続ける決意を口々に語った。

9月11日、オール沖縄会議は県庁前広場で「地方自治・ぞ！」と「不当判決に対する怒りと抗議の県民集会を開いた。参加者は「新基地反対は住民自治を尊重せよ・知事の決意を守れ！」と闘い続ける決意を口々に語った。

9月11日、オール沖縄会議は県庁前広場で「地方自治・ぞ！」と「不当判決に対する怒りと抗議の県民集会を開いた。参加者は「新基地反対は住民自治を尊重せよ・知事の決意を守れ！」と闘い続ける決意を口々に語った。





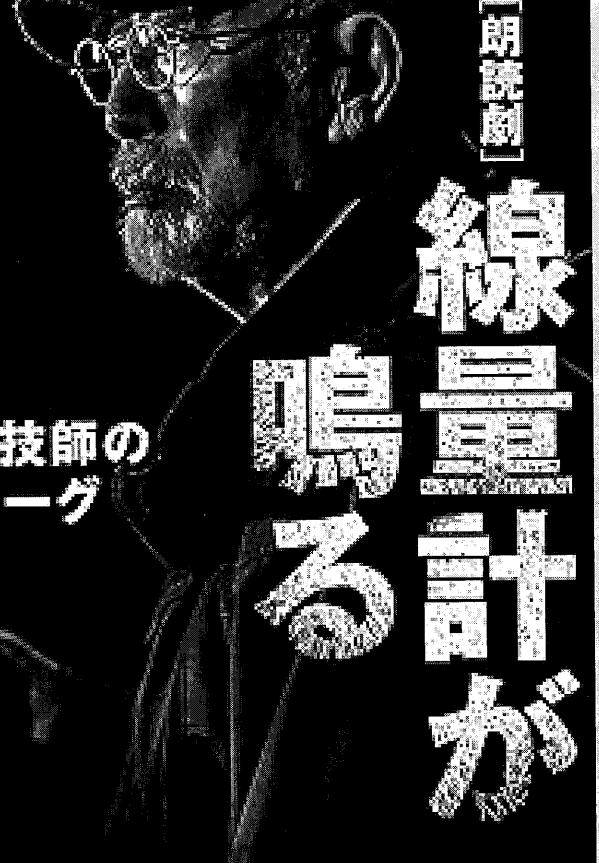




脚本/出演  
中村敦夫

Arsus Nakamura

元・原発技師の  
モノローグ



英題 : The Dosimeter Rings Monologue of a Former Nuclear Power Engineer  
脚本・出演 : 中村敦夫 定価 : 1,500円(税抜) 発行年月日 : 2022年3月22日  
DVD(3形態) 本編104分(カラー)[通常版] DVD+8Pの中綴じ冊子付  
[日本語字幕版] DVD※冊子付属しません [英語字幕版] DVD※冊子付属しません

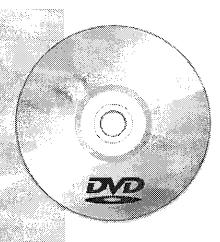
第一部：福島原発事故前後の地元の状況が、元・原発技師のモノローグという形で表現されます。

第二部：核兵器と原子力発電の原理と歴史、そして東京電力刑事裁判など、明らかになつた福島第一原発事故の経緯が授業のように解説されます。第三部：今の Chernobyl の状況で、主人公がウクライナへ取材旅行に行きます。

ここまでは「東京新聞」「日経サイエンス」「ニュートン」などのメディアからもいたい得られる情報ですが、このからが俳優であり、ジャーナリストでもあり、国會議員をも経験した中村敦夫さんの本領發揮です。

第四部：なぜ日本で原子力発電が進進されるのか、中村敦夫さんが取材して推理をします。

重たい内容の朗読劇ですが、笑いもあります。「ホアン・インアホ」から読みます。左から読んでも「ホアン・インアホ」から読みます。



## 元・原発技師のモノローグ 線量計が鳴る

コモンズ投稿

評者：石川直太(奈良県)

中村敦夫さんの朗読劇「線量計が鳴る」は日本各地で95回上演されました。しかし口の中で継続が難しくなり、まだ中村敦夫さんの年齢もあり、クラウドファン

ディングによってDVDを作りました。

ジャケットにこう書いてあります。「これは大人たちのエヴァインスです」。

量計が鳴る」と書いてあります。

元・原発技師のモノローグ

## コモンズ取扱店

乱鬼龍

未来など知ったことかと汚染水

虐殺百年百年分の怒りこめ

地球沸騰大世直しの他はなし

内閣は粗鶴最高裁は最低裁  
今日を歴史厳しく我ら問う



西沢江美子(農業ジャーナリスト)

うだるよつて暑かつた夏もやつと秋の気配。雑草と体を張つた高齢者たちの話題は、あつちでもじつちでも「戦争中草を食べた」だ。全もが上のがスベリヒュ(滑ひゆ)のこと。全国で生きてる農婦たちの話をスベリヒュに重ねてお伝えする。

スベリヒュという雑草、似ているのは園芸用の松葉ボタン。特徴は、地べたにべつたりと張り付く、どんどん土を覆つていく。

この草、根っこから引き抜いて石やコンクリートの上に置いても生き続ける。節が切れればそこから芽を出して生き延びる。なんとも生命力が強い。

この夏、雑草も高温干ばつで枯れていく中で、畑をわが天下として覆いはじめた。

猛暑見舞いを出した。農業関係で付き合つてきた農家女性たちばかり二十人ほど。手紙や電話、FAXを通してスベリヒュ情報がほちほち届く。

そのほとんどが七十代後半から八十年代、九十年代の農婦だ。かつて私の現役時代に農家に嫁とし

て地域で様々な活動をしてきた女性たち。

付き合つて約六十。それはどんな苦労と喜びの歴史だったろう。スベリヒュのように生き延びてきたのだ。スベリヒュに重ねてお伝えする。

正円二が日あれを食べると福がくるって食べた。だからといってでも予どもは

食べるものがなかったからよ。戦争中はどこにいた。(山形・山形市)

「今まで食べた。からだにこいつてでも予どもは嫌だった」(沖縄)

「家の戸口にかけて置くと魔よけ。おたふくかぜ、電よけ」(スベリヒュは代表だつたけど)モギ、アガザ、見えそなものは何でも食わされた」(長野・群馬・栃木・秋田)

「スベリヒュは戦争と貧困を思い出す。この夏の煙は主人公をしているスベリヒュは私たちにあの時代が来ていることを知らせているのかも」(長野・群馬・佐久市)の93歳の女性は電話でつながった。

来年はスベリヒュでじやない、農作物の実

る煙であつてほしい。

## 里山から

### ⑥

うだるよつて暑かつた夏もやつと秋の気配。雑草と体を張つた高齢者たちの話題は、あつちでもじつちでも「戦争中草を食べた」だ。全もが上のがスベリヒュ(滑ひゆ)のこと。全国で生きてる農婦たちの話をスベリヒュに重ねてお伝えする。

スベリヒュといつて、私が身を重ねて

## 編集室から

夏季カンパへのご協力ありがとうございました。

9月に入つても残暑厳しい日々が続いています。お見舞い申し上げます。

夏季カンパへのご協力をお願いしましたと、各方面から多額のカンパ

と励ましたメッセージをいただきました。本当にありがとうございます。

「いま伝統食になつて乾物も直売所に並ぶけど、

正円二が日あれを食べると福がくるって食べた。

付き合つて約六十。それはどんな苦労と喜びの歴史だったろう。スベリヒュのように生き延びてきたのだ。スベリヒュに重ねてお伝えする。

正円二が日あれを食べると福がくるって食べた。

付き合つて約六十。それはどんな苦労と喜びの歴史だったろう。スベリヒュのように生き延びてきたのだ。スベリヒュに重ねてお伝えする。

正円二が日あれを食べると福がくるって食べた。

正円二が日あれを食べると福がくるって食べた。

正円二が日あれを食べると福がくるって食べた。

正円二が日あれを食べると福がくるって食べた。

正円二が日あれを食べると福がくるって食べた。

正円二が日あれを食べると福がくるって食べた。

正円二が日あれを食べると福がくるって食べた。

**平和を求める  
重拵を許さない  
女たちの会  
10.22 13:30~**

シンポジウム  
田中儀子共開代表  
性の今なら声を上げられる。私たちの会  
は、重拵で子供に対する労働者と育て  
させや一人家庭、非正規労働者、子どもなど、  
社会的弱者の公的支援の実現をめざす  
団体で構成されています。  
女性のための「組織の構築と女性の活躍」を  
めざす組織です。

田代大作田キヤンパー  
〒101-8425 東京都千代田区神田3-8  
賛助金 500円(お手数をおかけします)  
gunkakuyurususai0208@gmail.com

古賀茂明  
シンドローム  
女性の恩返  
田中儀子  
田中儀子  
前記長  
前田佳子  
前田佳子  
前田佳子

ハネリスト 審議応答者  
東村アキコ  
宮崎信也  
田中優子  
前記長  
前田佳子  
前田佳子  
前田佳子

司会  
望月衣里子  
朝日新聞記者  
古賀茂明  
司会  
東村アキコ  
宮崎信也  
田中優子  
前記長  
前田佳子  
前田佳子  
前田佳子

議論がいつぱい生きている。福島県浪江の  
歴史的転換期、今後とも精一杯努力し、奮闘してまいります。――コモンズ編集機関紙局一同

日(水)は、関西生「週刊裏話裁判第1回公判」の間、

同裁判の協議

で、

ビックホール、約1,800人が満席。9月2日(土)夜、国連の浜の「汚染水流すな行動」も動き出した。(乱) 今号は、大野さんの「食糧安保の翼」(2)を筆者の都合で、第14期沖縄意見広告運動の6・11報告集会における伊波洋一さんの「特別講演」第2回を紙面の都合で、それぞれ次号送りとしました。なお6面の文化欄に奈良在住の読者の石川直太さんより朗読劇「線量計が鳴る」批評の批評の担当者。元内閣官房官、経産省幹部の原発政策を批判し、報道ステーション降板時に「I'm not Abe」と掲げた。主催は「分析と対話の輪」など、映画「女性の系統」の企画プロデューサーも務めた。「日本人は変わった」と世界が見ているが、日本人自身は気づかない。地元に競争しないから平和のために戦争するのに、そして日本人である日米問題から日米同盟を守るために日本人が血を流せ、という二つのバッドクス。。

請戸の浜の「汚染水流すな行動」も動き出した。(乱)

今号は、大野さんの「食糧安保の翼」(2)を筆者の都合で、第14期沖縄意見広告運動の6・11報告集会における伊波洋一さんの「特別講演」第2回を紙面の都合で、それぞれ次号送りとしました。なお6面の文化欄に奈良在住の読者の石川直太さんより朗読劇「線量計が鳴る」批評の批評の担当者。元内閣官房官、経産省幹部の原発政策を批判し、報道ステーション降板時に「I'm not Abe」と掲げた。主催は「分析と対話の輪」など、映画「女性の系統」の企画プロデューサーも務めた。「日本人は変わった」と世界が見ているが、日本人自身は気づかない。地元に競争しないから平和のために戦争するのに、そして日本人である日米問題から日米同盟を守るために日本人が血を流せ、という二つのバッドクス。。

請戸の浜の「汚染水流すな行動」も動き出した。(乱)

今号は、大野さんの「食糧安保の翼」(2)を筆者の都合で、第14期沖縄意見広告運動の6・11報告集会における伊波洋一さんの「特別講演」第2回を紙面の都合で、それぞれ次号送りとしました。なお6面の文化欄に奈良在住の読者の石川直太さんより朗読劇「線量計が鳴る」批評の批評の担当者。元内閣官房官、経産省幹部の原発政策を批判し、報道ステーション降板時に「I'm not Abe」と掲げた。主催は「分析と対話の輪」など、映画「女性の系統」の企画プロデューサーも務めた。「日本人は変わった」と世界が見ているが、日本人自身は気づかない。地元に競争しないから平和のために戦争するのに、そして日本人である日米問題から日米同盟を守るために日本人が血を流せ、という二つのバッドクス。。

請戸の浜の「汚染水流すな行動」も動き出した。(乱)

今号は、大野さんの「食糧安保の翼」(2)を筆者の都合で、第14期沖縄意見広告運動の6・11報告集会における伊波洋一さんの「特別講演」第2回を紙面の都合で、それぞれ次号送りとしました。なお6面の文化欄に奈良在住の読者の石川直太さんより朗読劇「線量計が鳴る」批評の批評の担当者。元内閣官房官、経産省幹部の原発政策を批判し、報道ステーション降板時に「I'm not Abe」と掲げた。主催は「分析と対話の輪」など、映画「女性の系統」の企画プロデューサーも務めた。「日本人は変わった」と世界が見ているが、日本人自身は気づかない。地元に競争しないから平和のために戦争するのに、そして日本人である日米問題から日米同盟を守るために日本人が血を流せ、という二つのバッドクス。。

請戸の浜の「汚染水流すな行動」も動き出した。(乱)